

## 会 議 要 旨

|          |   |
|----------|---|
| 会 議 名    | 令和元年度第 1 回 館山市地域公共交通会議  |
| 開 催 日    | 令和元年 7 月 3 1 日（水）午後 3 時～午後 4 時 4 5 分  |
| 開 催 場 所  | 館山市コミュニティセンター 1 階第 1 集会室  |
| 出 席 者    | [委 員]合計 2 5 名（欠席 5 名） 別紙一覧表のとおり<br>[館山市]合計 1 0 名（市長・総合政策部長・総務部長・高齢者福祉課長・経済観光部長・建設環境部長・教育部長・企画課長・同副課長・同係員）<br>上記のほか、館山市地域公共交通網形成計画に係る調査業務を受託した、ランドブレイン株式会社の社員が 2 名出席   |
| 公開・非公開の別 | 公 開   |
| 傍 聴 人 数  | 2 名（定員 1 0 名）   |
| 議 事      | 【議 事】<br>（ 1 ）館山市地域公共交通網形成計画の内容（方向性）について（協議事項）<br>（ 2 ）南房総・館山地域公共交通活性化協議会の立ち上げについて（報告事項）<br>（ 3 ）館山日東バス市内線の廃止申出に係る対応について（報告事項）<br>【その他】<br>・事業者からの情報提供等<br>・館山駅開業 1 0 0 周年・洲崎灯台点灯 1 0 0 周年記念イベントについて  |
| 会 議 内 容  | <b>開会</b><br><b>館山市長あいさつ</b><br><b>新規委員紹介</b><br>人事異動により委嘱替えを行った委員の紹介を実施。<br><b>委員自己紹介</b><br><b>議事</b><br><b>（ 1 ）館山市地域公共交通網形成計画の内容（方向性）について（協議事項）</b><br>・事務局から「資料 1-1～1-5」を用い、以下の内容等について説明。方向性や今後の進め方等について承認された。<br>昨年度実施した各種調査の結果から、課題を 5 つ設定。課題を基に、事務局にて計画策定に向けた基本理念と方向性を設定したこと。<br>方向性に紐づく具体事業案（たたき台）については、今後事業者や住民と詳細を協議・意見交換し、詰めていく予定であること。<br>引き続き、関係する皆様のご協力をいただき、計画策定を進めていくこと。<br><b>【質疑・意見等】</b><br>（室委員）<br>・グリーンスローモビリティの導入について、バス停まで行けない場所をこのようなものでカバーできることは良いと思う。 |

- ・まちづくりの観点をどのように盛り込むのか気になる。施設や学校の移転・再編によって路線のルートなども変わってくるのではないかと思うが。
- (事務局)
- ・現段階で病院や警察署、学校の再編等を見据え、計画策定したい。まちづくりの視点も忘れずに盛り込んでいきたい。
- (轟座長)
- ・立地、まちづくりについては、別の計画で扱っていくということか。交通計画策定に当たっては、それらまちづくり関係の計画と連動させながら策定していくという認識でよいか。
- (事務局)
- ・その通りである。
- (室委員)
- ・交通結節点の話が何度か出てきた。例えば西岬方面から出てきて、館山駅で乗換となると、館山駅で時間をつぶせるのであれば待ち時間が多少長くても良いと思うが、結節点になるような場所に時間をつぶせるような施設を整備していくという考え方を計画に盛り込んでいってはどうか。
  - ・資料 1-2 方向性 2 の中に、富崎地区の文字が見られない。富崎も坂道が多く、バス停まで行くのが大変という声を聞いている。ここにもグリーンスローモビリティを導入できたらいいのではないか。
- (事務局)
- ・富崎にもグリーンスローモビリティを導入できればいいと考えている。おどや大神宮店やふれあいショップ平砂浦など、結節点になりうる施設もある。
- (室委員)
- ・南房総市と一体的に計画を策定した方が良いという流れだと思うが、スケジュールはどうなっているのか。
- (事務局)
- ・今年度館山市単独の計画を策定し、次年度に 2 市合同の計画を策定する。詳細は議事 2 で説明する。
- (轟座長)
- ・結節点はただバス停があるだけでなく、時間を過ごせる場所が望ましい。
  - ・地域の拠点になるような場所について、具体的に考えられている場所があるのか。
- (事務局)
- ・そこまで具体化はしていないが、事務局としても、時間をつぶせる施設の洗い出しを行っている。
  - ・資料 1-3 の中で、大きい丸印としている商業施設等を結節点にしていければと考えている。
- (竜崎委員)
- ・資料 1-2 の「神戸・西岬地区」の中に、「布沼・坂井への洲の崎線一部乗入」と書かれているが、西岬から神戸に抜けて一周して館山に戻るイメージか。
  - ・南房パラダイスから相浜間の復活について、あくまで当該区間の復活ということか、白浜あたりまで行きたい利用者をカバーするのか、また平日も休日も、

年間通じてのイメージなのか、詳細を聞きたい。

(事務局)

- ・具体的には決まっていない部分も多い。今後関係者間で詰めていく。
- ・布沼・坂井地区のルートについてはイメージができていないところもある。
- ・南房パラダイスから相浜間の復活については、できれば年間、土日だけでもやりたいと考えている。旅館のチェックイン・チェックアウトにあわせた運行等も検討できればと考えている。
- ・どの程度需要があるか等も含め、地域の皆さんや関係者と協議し、対応策を検討していきたい。

(竜崎委員)

- ・資料 1-3 の循環ルートや再編案について、既存の一般路線バスと重なる部分をどう考えるか。費用面をどのように考えているのか。

(事務局)

- ・財政部局の了解が得られておらず、はっきり言えないが、例えば循環ルートをやるとなれば行政の負担も必要になると事務局では考えている。
- ・既存路線への影響についても、制度設計を行う中で検証していきたい。

(轟座長)

- ・資料 1-3 左上にある路線バスの再編イメージは、やや過剰な感がある。路線バスは主要な目的地を經由し、早く到着するほうが良いのではないか。
- ・循環ルートに乗り換えて、目的地に行くという想定で循環ルートを作っているのだと思うが、実際にやるときは細かな部分もしっかり詰めていかないと再編はできないと思う。

(鈴木正一委員)

- ・資料 1-2 に、豊房地区に小型バスを・・とあるが、畑集落ほか空白地が点在しており、ただ小型化するだけでは上手くいかないと思う。グリーンスローモビリティの活用を含め、ルートや形態の検討をしっかりと行うべき。
- ・神戸、那古、館野等他地区についてもしっかり検討していくべき。
- ・グループタクシー制度をどのように導入すべきかについてもしっかり論議する必要があると考える。
- ・資料 1-3 の循環ルートについても、時間帯など利便性を考え、ニーズに合わせてやっていかないとただ作っただけになってしまうと思う。

(事務局)

- ・豊房地区は集落が点在していて難しいと実感している。皆さんの知恵を借りながら、より良い方法を採用できればと考えている。
- ・その他のことについても、しっかり詰めていきたい。
- ・地域の皆さんと話をしながら、ニーズを捉えたルート設定やその後の見直し等を行っていきたい。

(鈴木正一委員)

- ・買物の際のケアも必要。買物袋を持って移動することすらままならない状況の人もある。老人カーなども含め、乗りやすい手法を考えることが大切。

(轟座長)

- ・豊房地区が小型バス、その他がグリーンスローモビリティなどと書いてあるが、

今後詰めていく中で変更は可能なのか。

(事務局)

・可能である。

(轟座長)

・グループタクシー制度については、市内全域を対象ということで良いか。

(事務局)

・その通りである。

(池田委員)

・今まではこのような計画はなく、運行系統の部分的な変更でやってきたのだと思う。それを脱して大掛かりなことを今後やっていくということで、今回策定する計画は交通施策のプラットフォームになる良い計画になると思う。

・現実と地域事情をしっかりと把握し、できるところから着手していったら良いと考えている。見直し、試行錯誤をしながら、効果的な実践ができるようにしていったら良いと思う。

・内容についてだが、検討資料は総花的である。策定に当たっては、現実を見て優先順位をつけて検討していくことが必要。

・市街地から離れば離れるほど交通手段が不便。西岬、神戸、富崎、神余、豊房の検討資料を見たが、豊房は非常に難しいと感じる。点在する集落をどのようにまとめるか、非常に大変。

・豊房線見直し(小型化)については当面良いと思うが、その先どうなっていくか、難しいと感じている。

・西岬の交通不便地域である坂井は現在路線バス通っていない。布沼まで通じるような路線バスとすることは良いと思う。

・交通空白地の定義も色々あると思うが、将来的な課題が生じてくると思う。タクシー会社との連携・協力が必要。将来に向けての十分な話し合いが必要になってくる。例えば、資料にあるグループタクシー制度もあるが、ライドシェアが近年盛んになってきている。ライドシェアのような仕組みも将来的には検討が必要。観光にも使えると思う。

・観光については、周遊バスもよいと思う。グリーンスローモビリティの導入も必要。特に城山公園については、頂上まで観光客を運ぶ施策においてグリーンスローモビリティが必要なのではないか。

・循環ルートについては、周辺部在住者、中心部在住者双方に便利。事業者としっかり話し合い、実現させてほしい。その際、既存のバスを使うのか新たにバスを導入するのかなど、検討して行ってほしい。

・市には、これらの実践に向け頑張っていてほしい。

(事務局)

・参考にさせていただく。

(轟座長)

・タクシーの活用についても検討していただきたい。

(石川委員)

・議題1について、会議でどのように検討していくのか。

(事務局)

- ・本日は大まかな方向性について皆さんにご了解いただく。
- ・ご了解いただければ、今後皆さんと具体的な施策について詰めていきたい。
- ・必要に応じ、作業部会（ワーキンググループ）を編成し、ニーズ等の検討も含め詰めていきたい。

## （２）南房総市との連携（合同会議設置、合同計画策定等）について（報告事項）

・事務局から「資料 2-1、2-2、2-3」を用い、以下の内容等について説明した。  
昨年度の会議でも取り上げたが、生活圈を共にし、公共交通の路線網や営業エリアも大半が共通している館山市・南房総市が合同の協議会を立ち上げ、計画を策定することで、効率的かつ利便性の高い公共交通網の構築が可能になるとの考えから、合同協議会設立、合同計画策定を進めることとなった。

2市で協議、準備を進めてきたが、このほど、合同の協議会を立ち上げることとなった。

メンバーについては、資料 2-2 に記載のとおり。

今年度は、南房総市エリアの調査事業を実施し、昨年度実施した館山市の調査と足並みを揃え、来年度に合同の計画策定を進めていく。

第 1 回会議を 9 月上旬頃、第 2 回会議を年度末に予定している。重複して委員になられている方にはお忙しい中恐縮だが、会議への出席をお願いしたい。

（轟座長）

・2市にまたがるバス路線に関しては、合同協議会で審議していくことになる。

### 【補足説明：南房総市 高梨委員（中村課長補佐）】

・南房総市としても、生活圈や経済圏を共にする館山市抜きに地域公共交通を考え難い。合同で地域公共交通網形成計画を作り、その後再編実施計画も・・・ということで進めていきたいと考えているので、よろしくをお願いしたい。

### 【質疑・意見等】

（室委員）

・合同協議会の委員に就任したいのだが、今から相談できるものなのか。

（事務局）

・南房総市とも協議する必要があるため、持ち帰り検討させていただく。

## （３）館山日東バス市内線の廃止申出に係る対応について（報告事項）

・事務局から、「資料 3-1 から 3-3」に従い、以下の内容等について説明した。

館山日東バスから、令和 2 年 3 月 31 日をもって市内線（なむや・小浜～富浦駅～船形～那古～イオン～館山駅～館山航空隊）について廃止したい旨の申出が千葉県バス対策協議会になされた。

その理由として、「国や県から補助を受けているものの、欠損の全てがカバーされるわけではなく、毎年 600 万円を超える赤字を館山日東バスが負っており、会社経営に大きな影響をおよぼしていること」が挙げられる。

館山市としては、市内の人口集中地区やイオンタウン等の商業施設をつないで走る基幹路線であり、館山市及び南房総市で追加補助を行い、運行を存続させる方針である。

ただし、今のまま運行を続けても状況は悪化するばかりと考えられるため、関

係者間で協議を行い、増収・増客に向けて路線の見直し等の検討を行う。

**【補足説明：館山日東バス 平野副会長】**

- ・市内線は当社の基幹路線であったが、利用者の減少により赤字となっていた。
- ・当路線の過去五年累積赤字は4300万円になっている。
- ・人件費抑制等費用節減に努めてきており、内部補填も行っていたが、会社全体の収益が2年連続赤字となっており、今後も人口減少が進む中、当社の負担継続が困難ということで千葉県バス対策協議会に申し出させてもらった。

**【質疑・意見等】**

(室委員)

- ・館山駅から宮城間について、補助なしで運行しているJRバスの路線と競合しているのはどうなのか。
- ・今後、路線の見直しをしていくということだが、計画への位置づけも含め検討していくのか？

(事務局)

- ・その通りである。館山駅から宮城間の路線競合については、イオンへの需要が見られるものの非効率であるという意見も出ている。実際、昨年度に、館山市・南房総市・館山日東バス・JRバス関東による四者協議を行い、路線競合などについて意見交換を行ったところ。
- ・資料3-1の末尾、「その他」の部分にも路線見直しのパターンを例示しているが、これらについても検討していきたい。

(轟座長)

- ・住民(利用者)が主体であるので、住民を巻き込んで議論してほしい。本件資料の中に、住民という言葉があまり見られなかったため、その点を意識してもらいたい。

**その他**

委員から以下のとおり情報提供があった。

**○竜崎委員(ジェイアールバス関東館山支店)**

- ・洲の崎線(館山駅～宮城～西岬方面)の「ショッピングライナー」(おどや館山海岸店・“渚の駅”たてやま経由便)については、4月～6月の利用実績を前年と比べると、少しずつ増えてきている。昨年より(1便あたり)人数として0.5人程度増えている。対前年で1.5倍くらい。
- ・高速バス「なのはな号」(東京線)において、貨客混載の取組を始めた。7月から伊戸漁港でその日に獲れた鮮魚を東京駅に運び、東京駅八重洲南口にある弁当屋(BARU竹若東京駅グランルーフ店)に卸している。まだ試行段階だが、その日のうちに新鮮なものを東京に届けられるというメリットがある。これまでも、波左間地区から野菜を運んだりしている。

**○平野副会長(館山日東バス)**

- ・11月下旬にイオンタウンで開催予定の「バスフェスタ」に当社も参加させていただく。昨年度はJRバス関東が単独で実施したものの、少しでもバスに親しみをもってもらうため開催するもの。詳細が決まったら改めてお知らせする。

**○事務局から（館山駅開業100周年・洲崎灯台点灯100周年について）**

- ・館山駅開業100周年をきっかけに、館山駅等に目を向けてもらおうという趣旨で、JR 東日本や海上保安庁と連携し、様々な事業を計画中。
- ・イベント内容決まったら、随時広報等でご案内する。

**【事務局から】**

- ・会議要旨についてはまとまり次第送付する。
- ・次回会議は9月末頃を予定している。

**閉会**